

「食」を中心に展開する日本語授業活動

中山 由佳

科目名：食べ物で学ぶ日本語

レベル：初級1・2 / 中級3・4・5 / 上級6・7・8

履修者数：35名

1. はじめに

初級学習者が興味を持って自発的に話し活動できるトピックは何だろうかという疑問から本実践の構想はスタートし、「食」に着目した。「食」と一言に言っても切り口によって日常から社会や歴史までさまざまな分野に話題が発展する可能性がある。本実践では、大学の総合日本語教育で扱いの少ない食に関する語彙表現を学びつつ、学習者が互いにリソースとなり、文化情報や自身の体験・考えを伝え合い、共有する活動を行っている。

2. 本実践で扱うトピックおよび活動

本実践で扱うトピックおよび活動は表1のとおりである。

表1 「食べ物で学ぶ日本語」授業で扱うトピックおよび活動内容

	トピック	活動内容	教材など
①	「食」のイメージマップ	イメージマップ作成, グループ会話	ワークシート
②	毎日の食生活	グループ会話, 発表	ワークシート
③	「食」の語彙導入	教師による説明	食に関する語彙・表現集
④	早稲田・東京のレストラン紹介	グループ会話, 作文	ワークシート
⑤	日本と世界の名産品	グループ会話	ワークシート
⑥	私の国のおすすめのレストラン	グループ会話, 発表 (プレゼンテーション), 作文	ワークシート, PPT
⑦	食文化・食事のマナー	グループ会話	ワークシート, ハンドアウト
⑧	季節・行事の食べ物	グループ会話	ワークシート, 読解資料, ハンドアウト
⑨	レシピ	料理番組視聴, レシピ読解, レシピ執筆, 発表 (プレゼンテーション)	ワークシート, ハンドアウト, 映像 (料理番組), PPT
⑩	思い出の食べ物	グループ会話, 作文	ワークシート
⑪	文学や映画の中の食べ物	グループ会話	ワークシート, 読解資料

2-1. 活動の紹介 (1)：生活情報を共有する

表1の②の活動では、現在の食生活について話し、近隣のスーパーなどを紹介する。④では、前学期から在住する学習者が来日間もない学習者におすすめのレストランを紹介する。これらの活動は来日直後の学習者にとって貴重な情報源となるようであった。

2-2. 活動の紹介 (2) : 互いの知識・文化的背景・生活習慣を共有する

表1の⑤⑥⑦⑧においては、お互いの出身国や背景に関わりのある国や地域に関する情報を交換し合う。たとえば、名産品、国のレストラン、季節や行事の食べ物では、その国・地域の食材やその地域の様子などについても情報交換する。さらには個人の体験も話し合う。食文化や食事のマナーに関しても本のマナー本のような情報だけではなく、それぞれ個々の家ではどうであったのかなど個人による違いについても話し合う。

2-3. 活動の紹介 (3) : 個人的体験を共有し、共感する

表1の⑩や⑪では、それぞれの体験から印象に残っている事柄に関して話し合う。ことに「思い出の食べ物」に関しては、食べ物にまつわる家族の思い出を話す学習者が多く、「(話して) あたたかい気持ちになった」などの感想が聞かれた。その他テレビ番組の映像教材、各学生の所有するスマートフォン、学生が書き込むためのワークシートなどがある。

3. 教材・教具

学期初めの時期に担当教員の作成した冊子「食に関する語彙・表現集」を配布する。ここには調理法(切り方や火加減を含む)、食材、調味料、肉の部位、分量、調理器具、食に関係のあるオノマトベや味覚表現を掲載している。学習者には授業時に携帯するよう指示し、新出表現を適宜書き入れるなどして「自分だけの食べ物の言葉の辞書」にするよう奨励している。またハンドアウトは担当教員が執筆または書き下した読解教材の他、画像を多く載せたものを配布している。

4. 成果物

本実践の成果物は「文集」である。文集に含まれるのは(1)自己紹介(2)早稲田のレストラン紹介(3)東京のレストラン紹介(4)私の国のレストラン紹介(5)私のレシピ(6)思い出の食べ物作文である。(2)(3)(4)においては、所在地、店の説明、値段などが書かれ、「グルメガイド」として使用できるようにした。また(5)は分量、手順を細かく示し、できれば画像も掲載して実際に見ながら料理できるものとした。

5. 課題

平均して30～35名の履修者がおり、プレゼンテーションにかなりの時間を費やしている。学習者からは「学びになる」「面白い」という声も聴かれる反面、人の話を聞くことが続いてしまうのでやや緩慢になってしまっているかもしれない。学習者の一人一人の細かいケアに関しても悩ましいところである。

(なかやま ゆか, 早稲田大学日本語教育研究センター)